

## 大阪市立北市民病院泌尿器科における 8 年間の 入院患者および手術統計 (1980年 4 月~1988年 3 月)

大阪市立北市民病院泌尿器科 (医長 : 安本亮二)

田 中 重 人, 安 本 亮 二

大阪市立大学医学部泌尿器科 (主任 : 前川正信教授)

浅川 正純, 小早川 等, 成山 陸洋, 川喜多順二

西島 高明, 松村 俊宏, 前川 正信

### CLINICAL STATISTICS ON INPATIENTS AND OPERATIONS DURING A EIGHT-YEAR PERIOD (1980~1987) AT OUR DEPARTMENT

Shigeto TANAKA and Ryoji YASUMOTO

*From the Department of Urology, Osaka Municipal Kita Citizen's Hospital*

Masazumi ASAKAWA, Hitoshi KOBAYAKAWA, Mutsuhiro NARUYAMA,  
Junji KAWAKITA, Takaaki NISHIJIMA, Toshihiro MATSUMURA  
and Masanobu MAEKAWA

*From the Department of Urology, School of Medicine, Osaka City University*

A clinical statistic survey was made on the patients, diseases and operations experienced at the ward of Department of Urology, Osaka Municipal Kita Citizen's Hospital between 1980 and 1987.

(Acta Urol. Jpn. 35: 1255-1259, 1989)

**Key words:** Clinical statistics, Urology

#### 緒 言

大阪市立北市民病院泌尿器科の 8 年間にわたる入院患者, および入院手術に関する統計を報告する. 大阪市立北市民病院は 1940 年 3 月に開設された市内西部に位置する市民病院である. 泌尿器科は 1980 年 4 月より診療を開始した. 総病床数 326 床, 医師数 30 人で, 外科混合病棟に泌尿器科病床数 20 床をもち, 泌尿器科常勤医師は 2 人である.

#### 対 象

1980 年 4 月より 1988 年 3 月までの泌尿器科入院患者を対象とした. 入院患者数は延べ数でなく実数とした. 同一患者が同一年度に複数回入院した場合は 1 名と数え, 入院が次年度にわたった場合は初年度へのみ算入した. 年度別治療の算定は治療が施行された年度とした. ただし, 年度が変わって再入院した場合はその年度の患者とした.

#### 入 院 患 者 数

8 年間の入院患者総数は 1,175 人であった (Table 1). 性別に見ると男子 906 人, 女子 269 人で男女比は 3.4 : 1 であった. 平均入院患者数は 167 人である. 年齢分布は男子は 70~79 歳代にピークがあるのに対して女子は 60~69 歳代となっている. 60 歳以上の老年層は増加傾向にあり 1987 年度では 58.6% を占めている. そのため慢性疾患を合併している頻度も高く他科との密接な連携を必要とする場合が増えてきている.

以下は疾患別分類を示すが複数の病名をもつものはそのおのおのを数えたので, 延べ疾患数は総計 1,316 例であった.

#### 疾 患 別 分 類

腫瘍が 481 例 (36.6%) で最も多く, ついで結石 236 例 (17.9%), 奇形 156 例 (11.9%), 感染症 126 例 (9.6%) の順であった.

Table 1. 入院患者年齢分布

年齢(歳)	1980		1981		1982		1983		1984		1985		1986		1987		計	
	男	女計(%)	男	女計(%)	男	女計(%)	男	女計(%)	男	女計(%)	男	女計(%)	男	女計(%)	男	女計(%)	男	女計(%)
0~9	8	19(13.6)	6	6(4.7)	22	22(17.9)	10	10(7.2)	15	15(7.8)	18	18(8.7)	10	10(6.1)	11	11(7.0)	100	100(8.8)
10~19	0	2(3.0)	2	4(3.1)	6	7(5.7)	6	6(4.3)	8	13(6.7)	7	11(5.3)	7	8(4.9)	9	12(7.6)	45	18(5.4)
20~29	4	4(6.0)	6	7(5.5)	3	6(4.9)	12	15(10.8)	12	15(7.8)	5	8(3.9)	3	4(2.5)	2	7(4.5)	47	19(5.8)
30~39	4	4(6.0)	7	9(7.1)	10	11(8.9)	4	8(5.8)	9	12(6.2)	5	11(5.3)	4	5(3.1)	3	5(3.2)	46	19(5.5)
40~49	6	8(12.1)	11	9(15.7)	14	19(15.4)	14	19(13.7)	17	27(14.0)	11	19(9.2)	9	19(11.7)	6	9(5.7)	88	140(11.9)
50~59	5	7(10.6)	19	6(25.1)	9	12(9.8)	19	6(25.1)	16	13(29.1)	29	6(35.1)	18	8(26.0)	15	6(21.3)	130	90(15.3)
60~69	6	12(18.2)	17	8(25.1)	10	9(15.4)	13	7(20.1)	27	9(36.1)	40	9(49.2)	28	9(37.2)	25	13(24.2)	166	70(29.1)
70~79	12	16(24.2)	24	3(27.3)	17	2(19.5)	23	1(24.3)	27	5(32.6)	34	4(38.4)	38	4(25.8)	29	6(35.2)	204	29(19.8)
80~89	4	4(6.0)	3	1(4.3)	5	1(6.4)	10	1(7.9)	9	3(12.6)	13	2(15.7)	11	0(11.6)	16	2(18.5)	71	10(6.9)
90~	0	0(0.0)	0	0(0.0)	2	2(1.6)	1	1(0.7)	2	2(1.0)	3	3(1.4)	0	1(0.6)	1	1(0.6)	9	1(0.8)
計	49	17(66)	95	32(127)	98	25(123)	112	27(138)	142	51(193)	185	42(207)	128	35(163)	117	40(157)	906	289(1175)

Table 2. 尿路性器腫瘍

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	計
副腎腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	1	1
腎腫瘍	4	2	3	7	4	3	0	2	25
腎盂腫瘍	1	1	0	1	1	1	0	2	7
尿管腫瘍	0	0	1	1	2	4	2	4	14
膀胱腫瘍	4	9	12	22	18	13	17	11	106
前立腺肥大症	9	15	17	23	36	67	43	48	258
前立腺癌	3	4	4	9	4	12	13	8	57
尿道癌	0	0	1	0	0	0	2	2	5
陰茎癌	0	0	1	0	1	0	0	1	3
睾丸腫瘍	0	0	1	2	0	0	1	1	5
計	21	31	40	65	66	100	78	80	481

Table 3. 尿路結石

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	計
腎結石	4	8	12	6	15	13	9	5	72
尿管結石	4	14	17	18	20	24	15	12	124
膀胱結石	3	3	3	3	4	4	6	5	31
前立腺結石	0	1	0	0	0	1	0	2	4
尿道結石	1	0	0	2	0	1	1	0	5
計	12	26	32	29	39	43	31	24	236

## 1) 腫瘍 (Table 2)

頻度でみると前立腺肥大症が258例(53.6%)、ついで膀胱腫瘍106例(22.0%)、前立腺癌57例(11.9%)の順であった。膀胱腫瘍の1例は原発性膀胱腺癌であった<sup>1)</sup>。副腎腫瘍は内分泌非活性副腎皮質腺腫であり腹部CTにより偶然発見されたものである<sup>2)</sup>。尿道癌は全例、膀胱癌術後の続発性癌である。

## 2) 尿路結石 (Table 3)

頻度でみると尿管結石が124例(52.5%)と最も多く、ついで腎結石72例(30.5%)であり、上部尿路結石症が83.1%を占めていた。膀胱結石31例(13.1%)であった。

## 3) 尿路性器先天性異常 (Table 4)

完全包茎66例(42.3%)と半数近くを占め、停留辜丸29例(18.6%)、腎嚢胞24例(15.4%)の順であった。

## 4) 感染症 (Table 5)

非特異的感染症が計120例(95.2%)と大部分を占めていた。特異的感染症は6例(4.8%)で5例が腎結核であった。腎結核および副性器結核は1985年以降皆無である。

## 5) その他の疾患

外傷、尿道狭窄、腎出血、インポテンツを取り上げた。インポテンツは主に血管拡張剤を用いた診断、治療<sup>3)</sup>のために入院したものであり深陰茎背静脈結紮術

Table 4. 尿路性器先天性異常

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	計
腎盂尿管移行部狭窄	0	1	0	0	0	1	0	0	2
腎 嚢 胞	0	2	1	4	5	5	3	4	24
異所開口尿管	0	0	0	3	0	0	0	1	4
膀胱尿管逆流	1	0	0	0	2	0	0	1	4
尿道下裂	0	1	0	0	2	1	0	0	4
包 茎	6	8	10	10	7	9	8	8	66
停留睾丸	2	5	7	0	2	3	4	6	29
精索静脈瘤	1	0	1	1	7	3	4	6	23
計	10	17	19	18	25	22	19	26	156

Table 5. 尿路性器感染症

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	計
非特異的									
腎盂腎炎	5	15	9	8	15	19	12	12	95
副睾丸炎	2	4	1	3	8	4	1	2	25
特異的									
腎 結 核	2	0	0	0	3	0	0	0	5
結核性副睾丸炎	0	1	0	0	0	0	0	0	1
計	9	20	10	11	26	23	13	14	126

Table 6. その他の疾患

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	計
腎 外 傷	0	3	1	1	1	0	0	0	6
尿道外傷	1	2	0	0	2	0	0	0	5
睾丸外傷	0	0	3	0	1	0	0	0	4
尿道狭窄	1	6	1	3	1	1	2	0	15
腎 出 血	1	7	1	6	7	5	2	2	31
インポテンツ	0	0	0	0	0	3	5	4	12

を1例に行った。

### 手術統計

月間の手術件数を開放手術と内視鏡手術に分けて分類した。入院手術件数は過去8年間で総数927件, うち開放手術512件(55.2%), 内視鏡手術415件(44.8%)であった。外来における小手術はこれらの中に含まれていない。

#### 1) 開放手術 (Table 7)

年度推移でみると件数はやや減少傾向にあり年平均54.0件である。内訳を見ると包茎手術106件(20.7%), 除睾術39件(7.6%), 睾丸固定術29件(5.7%), 前立腺摘除術29件(5.7%)の順であった。睾丸捻転に対する手術は睾丸固定術に含めた。前立腺摘除術は全例, 前立腺肥大症に対する被膜下摘除術である。腎摘除術の大半は腎腫瘍に対する広汎腎摘除術である。男子不妊症の原因となる精索静脈瘤については高位結紮術をおこなっている。

#### 2) 内視鏡手術 (Table 8)

年度推移でみると最近3年間の件数の増加が認められる。内訳ではTUR-P 168件(40.5%)と大部分を占め, 前立腺に対する手術は経尿道的手術がますます増加する傾向が認められる。高齢者で合併症が強い症例には前立腺凍結術を行っており, その成績については既に報告している<sup>4)</sup> ついでTUR-Bt 56件(13.5%), 前立腺生検術40例(9.6%), 腎嚢胞穿刺術24例(5.8%), 膀胱碎石術23件(5.5%)の順になっている。TUR-Btはstagingの診断目的と表在性腫瘍に対する治療的TURを含んだものである。開放手術で腎切石術, 腎盂切石術, 尿管切石術は年々減少傾向が認められるにもかかわらず, PNL, TULの増加が認められないのは尿路結石の治療がESWLに置き変わってきたためである。他にrenal papillary necrosisに対する内視鏡手術の経験も報告している<sup>5)</sup>。

Table 7. 開放手術

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	計
腎摘除術	3	3	1	2	2	2	1	1	15
腎部分切除術	0	3	0	1	1	0	0	0	5
腎切石術	2	1	0	0	1	0	1	0	5
腎瘻術	0	0	0	1	0	0	0	0	1
腎盂形成術	0	1	0	0	0	1	0	0	2
腎盂切石術	2	4	5	4	3	1	1	0	20
腎尿管全摘除術	1	1	1	1	3	5	1	4	17
腎固定術	0	2	1	0	0	0	0	0	3
副腎摘除術	0	0	0	0	0	0	0	1	1
尿管切石術	3	5	6	4	3	3	2	0	26
尿管剝離術	0	0	1	0	0	0	0	0	1
尿管尿管吻合術	0	0	0	1	0	0	0	0	1
尿管皮膚瘻術	1	3	2	4	4	1	2	0	17
尿管S状結腸吻合術	0	0	0	1	1	1	3	0	6
膀胱切石術	1	1	2	2	1	0	1	0	8
膀胱瘻術	0	2	1	0	0	0	0	0	3
膀胱尿管逆流防止術	1	2	0	0	1	0	0	2	6
膀胱摘除術	0	0	3	4	1	3	6	0	17
膀胱部分切除術	0	1	0	2	2	0	0	0	5
膀胱憩室摘除術	1	0	0	1	1	0	0	0	3
回腸導管造設術	0	0	1	0	1	2	2	0	6
前立腺摘除術	1	1	3	6	9	3	3	3	29
尿道摘除術	0	0	1	0	0	0	2	2	5
尿道形成術	0	1	0	0	2	1	0	0	4
外尿道口形成術	2	1	2	1	0	1	0	0	7
膀胱尿道挙上術	0	0	1	1	0	0	0	0	2
包茎手術	6	17	18	10	16	17	11	11	106
陰茎切断術	0	0	1	0	1	0	0	1	3
除睾術	5	4	5	6	3	8	4	4	39
副睾丸摘除術	0	1	0	0	0	0	0	0	1
睾丸固定術	2	5	7	0	2	3	4	6	29
陰囊水腫切除術	3	4	2	2	3	1	3	2	20
精索静脈高位結紮術	1	0	0	1	6	3	5	6	22
後腹膜リンパ節郭清術	0	0	0	1	0	0	1	0	2
その他	16	13	10	8	7	7	6	8	72
計	51	76	74	64	74	63	59	51	512

Table 8. 内視鏡手術

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	計
PNL	0	0	0	0	2	1	0	1	4
腎瘻造設術	0	1	0	0	1	0	2	2	6
TUL	0	0	0	3	10	3	4	6	26
TUR-P	4	11	9	10	18	44	39	33	168
TUR-Bt	3	6	3	9	8	7	10	10	56
膀胱碎石術	2	2	1	1	3	4	5	5	23
腎盂焼灼術	0	1	1	0	5	0	2	1	10
内尿道切開術	1	6	1	3	1	1	2	0	15
腎囊胞穿刺術	0	2	1	4	5	5	3	4	24
腎生検術	0	1	1	0	4	1	5	3	15
前立腺凍結術	1	1	3	1	1	5	3	3	18
前立腺生検術	3	0	2	0	3	15	9	8	40
その他	0	0	1	2	1	0	3	3	10
計	14	31	23	33	62	86	87	79	415

## 結 語

1980年4月から1988年3月までの大阪市立北市民病院泌尿器科における入院患者および入院手術に関する

臨床統計を行った。

1) 8年間の入院患者総数は1,175例で60歳以上の老年層の増加傾向がめだった。

2) 主な疾患は尿路性器腫瘍でそれに次いで尿路結

石であった。

3) 手術件数は8年間で927件で内視鏡手術の増加がめだった。主な手術はTUR-Pであった。

本臨床統計の要旨は第124回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した。

## 文 献

- 1) 田中重人, 安本亮二, 森川洋二, 森 勝志, 仲谷達也, 前川正信: 膀胱結石を伴った原発性膀胱腺癌の1例. 泌尿紀要投稿中
- 2) 田中重人, 安本亮二, 仲谷達也, 森川洋二, 和田誠次, 前川正信: 内分泌非活性副腎皮質腺腫の2例. 泌尿紀要投稿中
- 3) 安本亮二, 浅川正純, 川嶋秀紀, 吉村力勇, 前川たかし, 柏原 昇, 田中 寛, 西尾正一: インボテンツに対する血管拡張剤の使用経験. 泌尿紀要 **34**: 301-304, 1988
- 4) 安本亮二, 小早川等, 川喜多順二, 山本啓介, 前川正信, 糸井壮三: 前立腺凍結術の実際とその問題点. 泌尿紀要 **32**: 1599-1604, 1986
- 5) 安本亮二, 小早川等, 柿木宏介, 田中重人, 岩井省三, 山本啓介: 経皮的アプローチで治療した腎乳頭壊死の1例. 泌尿紀要 **32**: 215-220, 1986  
(1988年8月30日受付)